



## 『日本のロータリー100年の歩み そして未来へ』

幹事 池田和由

本日は、昨年5月25日に開催されました「日本のロータリー100周年を祝う会」にて上映されました『日本のロータリー100年の歩み そして未来へ』をご覧くださいます。  
(ビデオより音声を抜粋)

1905年アメリカのシカゴで産声をあげたロータリークラブ。その始まりは弁護士のポール・ハリス氏ら4人のメンバーの会合からでした。高潔さと高い倫理基準を胸に仕事に取り組むとともに互いに学び合い社会に奉仕するロータリーの場は瞬く間に世界に広がっていきました。そしてロータリー創設から15年後、米山梅吉氏と福島喜三次氏との出逢いがきっかけとなり日本にもロータリークラブが誕生しました。

日本にロータリークラブが誕生したのは1920年（大正9年）。その2年前、当時三井銀行の常務取締役を務めていた米山梅吉氏が政府派遣財政健全委員として渡米、ダラスで三井物産の現地法人の支配人を務め、既にロータリークラブに入会していた福島喜三次氏に出逢い話を聞いたことが日本にロータリーの歴史が開かれる最初のきっかけとなりました。その後帰国した福島氏は米山氏、W.L.ジョンストン氏とともに日本初のロータリークラブ設立のために奔走、米山氏は政財界の人々に声を掛け1920年10月24名で東京ロータリークラブが創立されました。翌年4月には国際ロータリーから正式認証され、初代会長には米山梅吉氏が就任したのです。そしてその翌年、1922年には国際ロータリーの正式認証を受けて、大阪ロータリークラブが創立されクラブ設立の動きが全国へと広がっていきました。ロータリークラブの会員、すなわちロータリアンの活動を支えるのは超我の奉仕、最もよく奉仕するもの最も多く報いられるという二つのモットーとロータリーの綱領、この精神が日本の職業人の共感を生み、ロータリーは発展していきました。またシカゴロータリークラブの会員で後の国際ロータリー会長となったハーバード・J・テラー氏が提唱した4つのテストは現在でも世界中のロータリアンにとって自身の行動の指針となっています。そしてロータリークラブの活動が多岐にわたるにつれ管理運営の基本的枠組として4大奉仕部門も定着していきました。1923年9月相模湾北部を震源とする巨大地震、関東大震災が発生、その壊滅的な被害状況を知った国際ロータリー会長からはすぐに励ましの電報が届いたのです。また世界16カ国503のロータリークラブからは義援金や救援物資が寄せられました。総額8万9,800ドルの義援金は震災孤児のための孤児院、ロータリーホームの建設資金などに充てられました。これが日本のロータリークラブにとって初めての大きな活動となり、その名が広く全国に知られる

こととなったのです。その後も全国各地にロータリークラブが誕生。会員同士が親睦を深めながら様々な奉仕活動に取り組み、1928年には朝鮮と満州を合わせ第70区として正式認証されるなど日本のロータリアン達の存在はロータリークラブの世界的な広がり中に根付いていきました。しかし、1931年満州事変が勃発、そのような中でも1935年にはロータリー創設者のポール・ハリス氏が来日して親交を深め、同年京都で開催された地区大会では新作のロータリーソングとして奉仕の理想、我らの生業が発表されるなど活動が続けられましたが、日米関係は日に日に悪化し1940年日本のロータリークラブはついに国際ロータリーから離脱することになってしまいました。しかし、会員達の心に根付いたロータリー精神は決して失われることはありませんでした。名称を七曜倶楽部連合会に変更し例会を続けたのです。1945年第二次世界大戦が終結、全国の元ロータリアン達はロータリークラブ復帰の為に活動をスタートさせました。1946年1月当時の東京水曜会が国内の旧ロータリークラブの状況を国際ロータリーに報告。様々な努力の甲斐あって1949年東京を皮切りに各地のクラブが復帰しロータリークラブとしての活動を再開。1949年5月には国際ロータリー第60区に指定されました。1952年5月の時点で日本のロータリークラブは74クラブ、会員数は2,957人を数えるまでになりました。1953年日本語の地域雑誌、ロータリーの友が創刊。1961年には日本での初めての国際大会が東京で開催され世界74カ国23,366人が参加しました。この時代には青少年の育成を支援する活動が盛んになりました。ロータリー青少年交換プログラムにも日本のロータリークラブもますます積極的に参加するようになりました。ロータリアンの家庭にホームステイする交換留学のこのプログラムは今では世界100カ国以上で実施されています。1946年からはロータリー財団が奨学金プログラムをスタート。日本人初の国連高等弁務官となった緒方貞子氏を1951年この奨学生制度を利用してアメリカへの留学を果たすなど日本からも数多くの奨学生が海外留学を経験し幅広い分野で活躍しています。そして日本でも国際親善と世界平和への願いのもと1952年東京ロータリークラブが日本で学ぶ外国人留学生を対象とした米山奨学金制度を設立。やがて日本国内全クラブの合同事業に発展し、1967年財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。これは日本最大の民間奨学事業として今日まで累計で22,000人を超える奨学生を支援しています。また1963年には12歳から18歳までの青少年のための社会奉仕クラブであるインターアクトクラブが日本にも誕生。宮城県仙台東ロータリークラブの提唱により仙台育英高校でスタートしました。青少年への支援はその後も広がり1968年にはローターアクトクラブ、その3年後にはロータリー青少年指導者養成プログラム、通称RYLAが国際ロータリーの公式プログラムとして採択されました。めざましい復興を遂げオリンピックが開催されることになった戦後の日本、経済の飛躍的發展とともに日本のロータリークラブも大きな成長を遂げ、会員数はますます増加していきました。1968年には日本から初めて東ヶ崎潔氏が国際ロータリー会長に就任するなど日本のロータリークラブは世界においてもなくてはならない存在となっていったのです。

高度経済成長期を経た1970年代以降日本のロータリークラブは世界のロータリークラブとともに支援を必要とする人々に積極的に手を差し伸べ奉仕活動に取り組み、1978年には2回目の国際大会を東京で開催しました。またその年、人道的な奉仕活動を行うロータリー財団の補助金を使用した3-Hプログラムが始まり、1979年にはその第一号としてフィリピンの600万人の子供達にポリオのワクチン投与を開始しました。東京麹町ロー

タリークラブの山田彝氏と峰英二氏は早くからポリオの惨状に深い関心を寄せ、南インドでワクチンの投与を二回に渡り実施しました。1985年この活動がWHO、ユニセフ、CDCとともに、全世界でポリオ撲滅を目指すポリオプラス・プログラムに発展、日本の東京麹町ロータリークラブが掲げたポリオ根絶に向けた動きは国際ロータリー、ロータリー財団の最優先事項となり、世界のロータリアンの力で今ではポリオ根絶間近までこぎ着けました。この間、1982年には向笠廣次氏が日本から二人目の国際ロータリー会長として活躍しました。また、1999年ロータリー財団管理委員会は世界平和に専念する交渉や調停の専門家を育成する平和と紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリーセンターの創設を承認、日本の国際基督教大学をはじめとする世界の8つの大学に7つのセンターを設置しました。ロータリー財団の補助金を活用した国際奉仕活動も活発になり日本のロータリアンは世界のロータリアンと共にロータリーの6つの重点分野を見据えつつ様々な奉仕活動に取り組んできました。国際奉仕活動が盛んになる中、日本国内では大きな自然災害がいくつも発生しました。海外からの支援も多く寄せられる中、日本のロータリアンも数多くの支援活動を展開、その活躍に心を動かされロータリーに入会した人も少なくありません。1950年から2000年の半世紀で日本のロータリーのクラブ数は64から2300。会員数は2000人からおおよそ12万人を超える数へと劇的な発展を遂げました。そして2010年にはクラブの指針である4大奉仕に新世代奉仕が加わり5大奉仕となりました。2012年には日本から3人目の国際ロータリー会長として田中作次氏が就任したのです。

2004年日本で3回目の開催となる国際ロータリー2004年国際大会が大阪で開催され、2005年にロータリーは100周年を迎えました。時代の変化とともに活動のあり方も様々に変化してきました。2019年国際ロータリーは新しいロータリーのビジョン声明を発表しました。このビジョン声明のもと、ロータリーは奉仕、親睦、高潔性、多様性、リーダーシップの5つの中核的価値観を大切にビジョン達成に向けて力を繋いで活動を続けています。そして日本のロータリークラブが100周年を迎えた2020年社会情勢は一変しました。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が起きたのです。クラブの例会は対面が叶わず、オンラインで行われるようになるなど大きな変化の風が吹き荒れる中、世界中のロータリアンが今こそロータリーの真価を発揮すべく、奉仕活動に取り組んでいます。2020年7月時点、国内のクラブ数は2,238、会員数は8万6,093人、アメリカ、インドに次ぐ規模となっています。女性の活躍もめざましく、次代を担う若きロータリアンが参加しやすい環境も積極的に整備されつつあります。過去を敬い未来を見据えながら進化を遂げ、時代に即した組織として繁栄させるべく全国のロータリアンが活動を続けているのです。2020年ロータリー平和センターがウガンダのマケレレ大学に設立されることが決定。さらに環境が7つめの重点分野に加わり地球環境も視野に入れ次の世紀に向け持続可能な変化を生み出そうと新たなチャレンジが始まっています。日本のロータリーは新たな世紀へと踏み出し地域社会の人々、世界中の人々とともにこれからも奉仕の心で歩み続けていきます。

以上